

東日本大震災を乗り越えて、
前に進もうとする三陸の人たちからの
メッセージを届けます。



三陸鉄道は4月に全線で運行を再開。しかし、復旧が遅れた島越駅の新駅舎が完成し、利用が始まったのは7月末だった。新しい駅舎は以前と同じ洋風の通り。旧駅舎の位置から山側に約100m移し、かさ上げした場所に建っている。駅前広場や周辺施設の整備はこれからだ。

三陸鉄道島越駅
岩手県田野畑村松前沢地内

島越駅を愛する「駅長さん」

早野くみ子さん

昭和59年(1984)の開業時から、ずっと三陸鉄道・島越駅で働き続けてきた早野くみ子さん。「やっと列車が通る。これで通学や通院が便利になると、皆で大歓迎したことを覚えています」と振り返る。その喜びは深い愛着となり、「駅は自分の居場所。もうひとつの家のような感覚でした」という。平成9年(1997)から、駅の管理を任せられ、「駅長さん」のような立場に。地域にとって大事なものの、必要とされるものに携わる幸せを感じる日々だった。

しかし、震災の津波により、駅舎は全壊。避難した山の頂上から、信じられない光景を見ることができた。「それでも、三鉄はすぐに走

り出したから、いつかはきっとここまで来るだろうと期待感を持っていました」と早野さん。開業30周年の今年4月、三鉄は待望の再出発を果たした。「涙を流す人もいました。私は、ただただ嬉しかつた。「明日、これに乗って病院に行く」という話を聞いたとき、本当に必要なのだと、あらためて実感しました」

今後は、もっと人の役に立てる駅に育てていきたいと話す早野さん。「ここに来て、おしゃべりするだけでもいい。切符を手渡すだけでなく、地区の皆さんの元気を確かめる場所でありたい。そうやって毎日、普通に働いていきたいです」と笑顔を見せた。

切符を売るだけでなく
元気を確かめる場所に

